

まとまり感をつくる
②個別に検討する



STEP 1

ゾーン区分から調和色の範囲を確認

1 計画所在地からゾーン区分の景観計画の色彩基準を確認します

2 対象とするゾーン区分の調和色の範囲を確認します

※作業シート1に記入します。(P33 作業シート記入例参照)

※P45以降の各ゾーンと歴史・伝統地区のガイドライン参照

ただし、一般市街地ゾーンは、他ゾーン調和色が適用される特例(P46一般市街地内の特例参照)に注意してください。

作業シートに沿った検討例

以下、写真の集合住宅の
塗装塗り替えに伴う外観の変更例です。

シート1

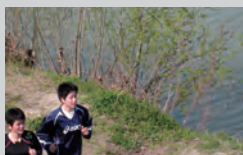
「ゾーン区分」 一般市街地ゾーン

ただし、この対象物の場合は河川緑地軸沿いで水辺に面するため、山の辺・田園ゾーンとして扱います。

検討対象



周辺の状況



シート2

「周辺の特徴」 海辺の緑豊かな自然

視点場の確認

遠景・近景、多様な中から確認します。



近景の通りから



河川敷から



橋梁から



STEP 2

視点場から見える色彩を採取



1 視点場を確認します (※P59 資料編 色彩の採取方法参照)

2 周辺の特徴を確認します

- ・背景や周辺に見られる景観の特徴を調べ、シート2に記入します。
- ・周辺に何があるか? 遠い山並み、近くの植物、土や砂、町家等を確認します。

3 視点場から見える色彩を採取します

- ・特徴的な景観の色彩を採取し、マンセル値をシート3に記入します。
- ・特徴がない場合は平均的な周辺建築物等の色を採取します。
- ※色の採取に不安がある場合は巻頭と資料編の「福岡の色」の色見本を参考に照合してください。

4 複数の視点場からパースに使用する視点場を選びます

- ・選んだ視点場から計画建築物等又は計画地を入れた写真を撮影します。
- ・写真は周囲を広く取り入れたワイド写真かパノラマ写真とします。

シート3

「視点場から見える色彩」 水辺の緑豊かな自然

1 水辺のヤナギの色

色相：4GY 明度：4 彩度：6



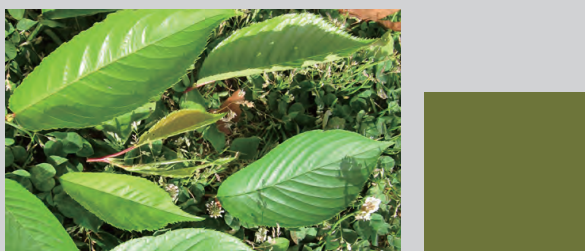
2 河川敷公園の桜(紅葉)の色

色相：6.5YR 明度：3.8 彩度：12



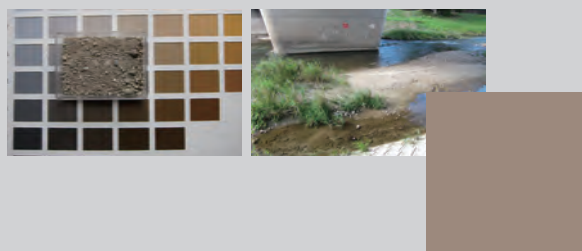
2 河川敷公園の桜(新緑)の色

色相：4GY 明度：4.2 彩度：5.5



3 川の砂の色

色相：0.5Y 明度：5.8 彩度：2.2





STEP 3

調和のための色彩作法に基づき基調色を選定

1 調和のための作法にもとづき、 基調色の候補色を選びます

- ・調和のための作法 (P15 参照) にしたがって、シート 3「視点場から見える色彩」との適切な関係性から対象物の計画目的や内容に相応しい候補色をゾーンの景観計画の色彩基準範囲の中から選びます。P45 以降の各ゾーンと歴史・伝統地区の作法も考慮してください。

2 大きな面積で見える背景色や特に大切にすべき色彩を シート 3 から選び、シート 4 に記入します

- ・建築物を引き立てたり、周辺の特徴を活かしたまとまり感をつく

3 基調色の絞り込みをします

- ・STEP 4 のパースに使用する写真の上に上記 2 の背景色と大切にすべき色の正確な色見本を布置します。次に計画位置に 1 の候補色の色見本を布置します。
- ・色見本を布置した写真を見て、背景色を阻害せず、大切にすべき色彩景観を引き立てる基調色を絞り込みます。見え方によっては別の候補色を選択します。

- ・基調色だけを用いる場合は STEP 3 で選定は終了、パース等を作成します。
- ・補助色も用いる場合は配色の選定を行います。また都心ゾーンと港湾ゾーンでにぎわい色を用いる場合見付面積の 10% 以内で同様に選定します。
- ・さらに色数を足す場合は補助色、にぎわい色それぞれまとまりが保たれる範囲で使用します。

シート 4	「基調色の選定」 候補色
	候補色 1 色相：2.5GY 明度：8 彩度：2
	候補色 2 色相：5YR 明度：6 彩度：2
	背景色又は大切にすべき色 水辺のヤナギ等の緑の色 色相：4GY 明度：4 彩度：6
	選定した基調色 色相：10Y 明度：7 彩度：1.5 <small>例示では、修正を加え、あまりクールにならない水辺の自然環境に調和する緑みの色を選びました。</small>

写真に色見本を布置した検討図

シート 5	「配慮事項確認と配色の選定」
(1) 視点場からの見え方	
<input checked="" type="checkbox"/> 主に遠景視で 建築物全体が見える	→ 開放的な周辺環境を活かすため、上層部は基調色よりも高明度の補助色を用い、軽快なスカイラインを形成します。
<input checked="" type="checkbox"/> 近景・通り景観視で 中層程度まで見える	→ 周辺の閉鎖的な印象や圧迫感を和らげるため、基調色と類似色相の濃淡配色となる明度が高めの色彩とします。
<input type="checkbox"/> 近景・通り景観視で 低層部のみ見える	→ 周辺の閉鎖的な印象を和らげるため、明度の高い色彩を採用します。低層部の明度／彩度を隣接する建築物の低層部とあわせませす。
(3) 選定した補助色／にぎわい色	
補助色	
	色相：5YR 明度：8 彩度：1
	色相：7.5YR 明度：5 彩度：3

STEP 4 パース、チェックリストで確認 配慮事項を確認し、配色(補助色等)を選定

1 視点場からの見え方を確認します

- ・現地で計画建築物等がどのように見えるか、視点場からの距離やボリュームを確認し、例示の配慮事項に沿った配色を検討します。(例示シート 5(1))※P11 視点場を考える参照

2 周辺建築物との関係を確認します

- ・周辺建物に対しての間口と高さの程度を確認し、例示の配慮事項に沿った配色を検討します。(例示シート 5(2)) ※建物の配色構成は P9 参照

3 パース等シミュレーション図を作成し、周辺との調和を確認します

- ・STEP 2 の視点場からの写真を元にパース等シミュレーション図を作成し、補助色やにぎわい色を割り付けて着彩し、色彩計画の内容が適切であることを確認します。

4 STEP 1 から色彩の決定までの検討内容を チェックリスト (P34) に沿って確認します

(2) 周辺建物との関係

- | | | | |
|----|---|-------------|---|
| 間口 | <input checked="" type="checkbox"/> 広い
<input type="checkbox"/> 同程度
<input type="checkbox"/> 狭い | →
→
→ | ボリューム感をやわらげるため、横方向(縦ストライプ)の補助色の使い分けや低層部に補助色やにぎわい色を用いた壁面の分節化を検討します。基調色と補助色の明度差は極端に大きくつけないようにします。
周辺と合わせた佇まいや趣を継承した計画とします(単色または塗り分けを検討します)。
周辺と色相が異なる明度の低い補助色は避け、まちなみの色と連続させます。(単色または塗り分けのどちらかを検討します) |
| 高さ | <input checked="" type="checkbox"/> 高い
<input type="checkbox"/> 同程度
<input type="checkbox"/> 低い | →
→
→ | ボリューム感をやわらげるため高さ方向での補助色の使い分けを検討します。基調色と補助色の明度差は3以内とします。
周辺と合わせた佇まいや趣を継承した計画とします(単色または塗り分けを検討します)。
周辺と色相が異なる明度の低い補助色は避け、まちなみの色と連続させます。(単色または塗り分けのどちらかを検討します) |

にぎわい色

色相: 明度:
彩度:

色相: 明度:
彩度:



※記入例：P29～32の事例に従い、記入例を表示しています

色彩検討のプロセス「まとまり感をつくる ②個別に検討する」の色彩検討図書

作業シート 記入例

- (注) 1 該当する□の中にレ印を付けてください。
 2 記載項目 _____には名称や数値等を記入して下さい。
 3 シート4の検討図とパース等シミュレーション図は別に作成し、添付して下さい。
 4 この表における色彩の表示は、マンセル値（日本工業規格 JIS Z8721に定める色相、明度及び彩度の三属性の値をいう）の表示その他適当な方法により行うものとします。

シート1 ゾーン区分	ゾーン区分 <input checked="" type="checkbox"/> 一般市街地ゾーン <input type="checkbox"/> 都心ゾーン <input type="checkbox"/> 山の辺・田園ゾーン <input type="checkbox"/> 海浜ゾーン <input type="checkbox"/> 港湾ゾーン <input type="checkbox"/> 歴史・伝統地区		
	一般市街地ゾーン内の特例（一般市街地を選んだ方）		
	山の辺・田園ゾーンを適用 <input type="checkbox"/> 風致地区内及び背景に風致地区 <input type="checkbox"/> 背景に特別緑地保全地区 <input type="checkbox"/> みどりの帯 みどりの基本計画 <input type="checkbox"/> 山すそのみどり みどりの基本計画 <input checked="" type="checkbox"/> 河川緑地軸沿い <input type="checkbox"/> 開けた水辺に面する（上記以外の河川、ため池）	海浜ゾーンを適用 <input type="checkbox"/> 開けた水辺に面する（海浜、干潟、河口）	都心ゾーンを適用 <input type="checkbox"/> 幹線道路沿い <input type="checkbox"/> 広域拠点

シート2 周辺の特徴	1 自然（自然景観&風土基盤） <input checked="" type="checkbox"/> 公園、神社、街路樹等があり、緑豊かな <input type="checkbox"/> 山並み、田園が広がる <input checked="" type="checkbox"/> 川、池、海浜、港がある <input type="checkbox"/> その他
	2 伝統（建物の歴史） <input type="checkbox"/> 歴史的建築物や文化的資源等がある <input type="checkbox"/> その他
	3 建築物等 <input type="checkbox"/> マンションやビル群がある <input type="checkbox"/> 一戸建てがある <input type="checkbox"/> その他

シート3 視点場から 見える 色彩から	1 自然（自然景観&風土基盤） 1： <u>セナギの葉</u> の色 色相 <u>4GY</u> 明度 <u>4</u> 彩度 <u>6</u> 2： <u>桜の葉</u> の色 色相 <u>4GR</u> 明度 <u>4.2</u> 彩度 <u>5.5</u> 3： <u>桜の紅葉</u> の色 色相 <u>6.5R</u> 明度 <u>3.8</u> 彩度 <u>12</u>
	2 伝統（建物の歴史） 1： _____の色 色相 _____ 明度 _____ 彩度 _____ 2： _____の色 色相 _____ 明度 _____ 彩度 _____ 3： _____の色 色相 _____ 明度 _____ 彩度 _____
	3 建築物等 1： _____の色 色相 _____ 明度 _____ 彩度 _____ 2： _____の色 色相 _____ 明度 _____ 彩度 _____ 3： _____の色 色相 _____ 明度 _____ 彩度 _____

シート4 基調色の選定	候補色 1 色相 <u>2.5GY</u> 明度 <u>8</u> 彩度 <u>2</u> 候補色 2 色相 <u>5YR</u> 明度 <u>6</u> 彩度 <u>2</u>
	背景色又は大切にすべき色 背景 _____の色 色相 _____ 明度 _____ 彩度 _____ 大切にすべき <u>セナギの葉</u> の色 色相 <u>4GY</u> 明度 <u>4</u> 彩度 <u>6</u>
	選定した基調色 色相 <u>10Y</u> 明度 <u>7</u> 彩度 <u>1.5</u>
	写真と色見本を布置した検討図 ※A3 サイズ程度の別用紙に作成し添付して下さい

4：川の砂の色
色相 0.5Y 明度 5.8 彩度 2.2

追加があれば、余白を使って記載下さい。

→ P31 検討例を参照下さい。

シート5 配色事項の 確認と 選定	視点場からの見え方 <input checked="" type="checkbox"/> 主に遠景視で建物全体が見える <input checked="" type="checkbox"/> 近景・通り景観視で中層程度まで見える <input type="checkbox"/> 近景・通り景観視で低層部のみ見える
	周辺建築物との関係 間口 <input checked="" type="checkbox"/> 広い <input type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 狭い 高さ <input checked="" type="checkbox"/> 高い <input type="checkbox"/> 同程度 <input type="checkbox"/> 低い
	選定した補助色・にぎわい色 補助色 色相 <u>5Y</u> 明度 <u>8</u> 彩度 <u>1</u> 色相 <u>7.5YR</u> 明度 <u>5</u> 彩度 <u>3</u> にぎわい色 色相 _____ 明度 _____ 彩度 _____ 色相 _____ 明度 _____ 彩度 _____
	視点場からのパース等シミュレーション図 ※A3 サイズ程度の別用紙に作成し添付して下さい

→ 配慮事項等の考え方は、P31 検討例を参照下さい。

→ 配慮事項等の考え方は、P32 検討例を参照下さい。

→ P29～32 事例では、山の辺・田園ゾーンなのでにぎわい色は対象外となります。

→ P32 検討例を参照下さい。

色彩検討のプロセス「まとまり感をつくる ②個別に検討する」の色彩検討図書

チェックリスト (注) 1 該当する□の中にレ印を付けてください。 記入例

STEP 1 ゾーン区分から 使用色範囲を確認	<input checked="" type="checkbox"/> ゾーン区分は適切ですか？ <input checked="" type="checkbox"/> 一般市街地ゾーン内での特例適用は適切に行われましたか？								
STEP 2 視点場から見える色彩を採取	<input checked="" type="checkbox"/> 視点場は遠景～近景の複数の視点場を設定しましたか？ <input checked="" type="checkbox"/> 周辺を色々と眺め、代表的視点場としましたか？ <input checked="" type="checkbox"/> 周辺の特徴に漏れはありませんか？ <input checked="" type="checkbox"/> 視点場から見える色彩は周辺の特徴を的確に示した色ですか？ <input checked="" type="checkbox"/> パースに使用する視点場は、計画建築物等と周辺景観の特徴を的確に表していますか？								
STEP 3 調和のための作法に基づき 基調色を選定	<input checked="" type="checkbox"/> 基調色候補色の色相は、周辺や視点場から見られた特徴の色彩を基にして「風土基盤の色相範囲をベースに、植物との関係性を考慮した色相範囲」となっていますか？ <input checked="" type="checkbox"/> 基調色候補色の明度は、周辺や視点場から見られた特徴の色彩を基にして「背景となる自然等と同程度の見え方となる明度範囲」となっていますか？ <input checked="" type="checkbox"/> 基調色候補色の彩度は、周辺や視点場から見られた特徴の色彩を基にして「自然等との関係性から低めの彩度を用い、場所に応じた調和が図られる彩度範囲」となっていますか？ <input checked="" type="checkbox"/> 基調色の候補色は各ゾーン別の色彩の作法に則り選定しましたか？ <input checked="" type="checkbox"/> 候補色は景観計画の色彩基準内ですか？								
STEP 4 配慮事項を確認し、 配色（補助色等）を選定	<table border="1" style="width: 100%;"> <tbody> <tr> <td data-bbox="446 909 667 1160"> <input checked="" type="checkbox"/> 見え方の確認は適切ですか？ </td> <td data-bbox="667 909 1465 1160"> <ul style="list-style-type: none"> ・見え方は計画建築物等から視点場までの距離に応じて変化しますのでP11～14 調和のために必要な視点をご参照下さい。 ・遠景の視点場から見える場合は、山並み等が背景となり建築物の上層部の補助色と基調色の振り分けが効果的となります。 ・近景や通り景観等近からの見えは、意識的に見上げない限り視線は低層部を見るため、中層部や低層部の通りとしての印象づくりへの配慮が必要となります。この場合、周りとの色調や意匠をそろえる、自然素材と共通する色又は彩度の低い色に合わせるとまとまり感が高まります。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="446 1160 667 1541"> <input checked="" type="checkbox"/> 周辺建築物との関係は適切ですか？ (補助色の使い分けや壁面の分節化) </td> <td data-bbox="667 1160 1465 1541"> <input checked="" type="checkbox"/> 建築物の縦方向の印象をやわらげる <ul style="list-style-type: none"> ・基調色よりも高い部分に補助色を使用；この場合は、基調色と類似色相の濃淡配色となる背景の明度と同程度の明淡色で重たくない色が効果的です。 ・基調色よりも低い部分に補助色を使用；この場合は、基調色と類似色相の濃淡配色となる低層部のまちなみと連続する濃色が効果的です。 <input type="checkbox"/> 建築物の縦方向を強調する&横方向の印象を和らげる ・補助色を縦ストライプ等の縦使いとします；基調色と明度差3以内で類似色相の濃淡配色となる、背景の明度と同程度の明淡色又は濃色が効果的です。 <input type="checkbox"/> 意匠的に色彩を使い分ける ・周辺の特徴（STEP 2）に個性が見られる場合や建築物に形態的特徴を持たせる場合、個性や形態を強調するモチーフで補助色をデザインします。この場合であっても、周辺景観とのまとまり感が保たれる範囲で選ぶように努めます。 </td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="446 1541 1465 1644"> <input type="checkbox"/> 都心ゾーンと港湾ゾーンでにぎわい色を用いる場合は、低層部に限定し、見付面積の10%以内で使用しましたか？ <input type="checkbox"/> にぎわい色は、歩いていて楽しい魅力的な空間づくりに関わることから、周辺の通り景観の基調に合わせた自己主張を抑えたものとしたか？ </td> </tr> </tbody> </table>	<input checked="" type="checkbox"/> 見え方の確認は適切ですか？	<ul style="list-style-type: none"> ・見え方は計画建築物等から視点場までの距離に応じて変化しますのでP11～14 調和のために必要な視点をご参照下さい。 ・遠景の視点場から見える場合は、山並み等が背景となり建築物の上層部の補助色と基調色の振り分けが効果的となります。 ・近景や通り景観等近からの見えは、意識的に見上げない限り視線は低層部を見るため、中層部や低層部の通りとしての印象づくりへの配慮が必要となります。この場合、周りとの色調や意匠をそろえる、自然素材と共通する色又は彩度の低い色に合わせるとまとまり感が高まります。 	<input checked="" type="checkbox"/> 周辺建築物との関係は適切ですか？ (補助色の使い分けや壁面の分節化)	<input checked="" type="checkbox"/> 建築物の縦方向の印象をやわらげる <ul style="list-style-type: none"> ・基調色よりも高い部分に補助色を使用；この場合は、基調色と類似色相の濃淡配色となる背景の明度と同程度の明淡色で重たくない色が効果的です。 ・基調色よりも低い部分に補助色を使用；この場合は、基調色と類似色相の濃淡配色となる低層部のまちなみと連続する濃色が効果的です。 <input type="checkbox"/> 建築物の縦方向を強調する&横方向の印象を和らげる ・補助色を縦ストライプ等の縦使いとします；基調色と明度差3以内で類似色相の濃淡配色となる、背景の明度と同程度の明淡色又は濃色が効果的です。 <input type="checkbox"/> 意匠的に色彩を使い分ける ・周辺の特徴（STEP 2）に個性が見られる場合や建築物に形態的特徴を持たせる場合、個性や形態を強調するモチーフで補助色をデザインします。この場合であっても、周辺景観とのまとまり感が保たれる範囲で選ぶように努めます。 	<input type="checkbox"/> 都心ゾーンと港湾ゾーンでにぎわい色を用いる場合は、低層部に限定し、見付面積の10%以内で使用しましたか？ <input type="checkbox"/> にぎわい色は、歩いていて楽しい魅力的な空間づくりに関わることから、周辺の通り景観の基調に合わせた自己主張を抑えたものとしたか？			
<input checked="" type="checkbox"/> 見え方の確認は適切ですか？	<ul style="list-style-type: none"> ・見え方は計画建築物等から視点場までの距離に応じて変化しますのでP11～14 調和のために必要な視点をご参照下さい。 ・遠景の視点場から見える場合は、山並み等が背景となり建築物の上層部の補助色と基調色の振り分けが効果的となります。 ・近景や通り景観等近からの見えは、意識的に見上げない限り視線は低層部を見るため、中層部や低層部の通りとしての印象づくりへの配慮が必要となります。この場合、周りとの色調や意匠をそろえる、自然素材と共通する色又は彩度の低い色に合わせるとまとまり感が高まります。 								
<input checked="" type="checkbox"/> 周辺建築物との関係は適切ですか？ (補助色の使い分けや壁面の分節化)	<input checked="" type="checkbox"/> 建築物の縦方向の印象をやわらげる <ul style="list-style-type: none"> ・基調色よりも高い部分に補助色を使用；この場合は、基調色と類似色相の濃淡配色となる背景の明度と同程度の明淡色で重たくない色が効果的です。 ・基調色よりも低い部分に補助色を使用；この場合は、基調色と類似色相の濃淡配色となる低層部のまちなみと連続する濃色が効果的です。 <input type="checkbox"/> 建築物の縦方向を強調する&横方向の印象を和らげる ・補助色を縦ストライプ等の縦使いとします；基調色と明度差3以内で類似色相の濃淡配色となる、背景の明度と同程度の明淡色又は濃色が効果的です。 <input type="checkbox"/> 意匠的に色彩を使い分ける ・周辺の特徴（STEP 2）に個性が見られる場合や建築物に形態的特徴を持たせる場合、個性や形態を強調するモチーフで補助色をデザインします。この場合であっても、周辺景観とのまとまり感が保たれる範囲で選ぶように努めます。 								
<input type="checkbox"/> 都心ゾーンと港湾ゾーンでにぎわい色を用いる場合は、低層部に限定し、見付面積の10%以内で使用しましたか？ <input type="checkbox"/> にぎわい色は、歩いていて楽しい魅力的な空間づくりに関わることから、周辺の通り景観の基調に合わせた自己主張を抑えたものとしたか？									
パース、チェックリストで確認	<table border="1" style="width: 100%;"> <tbody> <tr> <td colspan="2" data-bbox="446 1662 1465 1765"> <input checked="" type="checkbox"/> パース等への基調色、補助色、にぎわい色の割付は適切に行いましたか？ <input checked="" type="checkbox"/> 建築物等は全体としてまとまりがはかられていますか？ <input checked="" type="checkbox"/> 建築物等は周辺景観のまとまり感と協調して連続性がはかられていますか？ </td> </tr> <tr> <td data-bbox="446 1765 667 1868"> <input checked="" type="checkbox"/> 基調色の調整 </td> <td data-bbox="667 1765 1465 1868"> <ul style="list-style-type: none"> ・屋並みと連続し、軽快なスカイラインを保っていますか？ ・圧迫感なく周辺景観の美しい緑や伝統のまちなみを引き立えていますか？ ・浮いて見えることなく四季折々を通じた配慮がされていますか？ </td> </tr> <tr> <td data-bbox="446 1868 667 1966"> <input checked="" type="checkbox"/> 補助色との調整 </td> <td data-bbox="667 1868 1465 1966"> <ul style="list-style-type: none"> ・浮いて見えることなく基調色との相乗効果はあがっていますか？ ・派手さを抑えた控えめな壁面の分割化がはかられていますか？ ・屋並みと連続し、軽快なスカイラインを保っていますか？ </td> </tr> <tr> <td data-bbox="446 1966 667 2069"> <input type="checkbox"/> にぎわい色の調整 </td> <td data-bbox="667 1966 1465 2069"> <ul style="list-style-type: none"> ・色数は少なく絞りこみましたか？ ・面積は極小小面積に抑えましたか？ ・補助色で対応できるか検討し、可能な場合は補助色の中から選びましたか？ </td> </tr> </tbody> </table>	<input checked="" type="checkbox"/> パース等への基調色、補助色、にぎわい色の割付は適切に行いましたか？ <input checked="" type="checkbox"/> 建築物等は全体としてまとまりがはかられていますか？ <input checked="" type="checkbox"/> 建築物等は周辺景観のまとまり感と協調して連続性がはかられていますか？		<input checked="" type="checkbox"/> 基調色の調整	<ul style="list-style-type: none"> ・屋並みと連続し、軽快なスカイラインを保っていますか？ ・圧迫感なく周辺景観の美しい緑や伝統のまちなみを引き立えていますか？ ・浮いて見えることなく四季折々を通じた配慮がされていますか？ 	<input checked="" type="checkbox"/> 補助色との調整	<ul style="list-style-type: none"> ・浮いて見えることなく基調色との相乗効果はあがっていますか？ ・派手さを抑えた控えめな壁面の分割化がはかられていますか？ ・屋並みと連続し、軽快なスカイラインを保っていますか？ 	<input type="checkbox"/> にぎわい色の調整	<ul style="list-style-type: none"> ・色数は少なく絞りこみましたか？ ・面積は極小小面積に抑えましたか？ ・補助色で対応できるか検討し、可能な場合は補助色の中から選びましたか？
<input checked="" type="checkbox"/> パース等への基調色、補助色、にぎわい色の割付は適切に行いましたか？ <input checked="" type="checkbox"/> 建築物等は全体としてまとまりがはかられていますか？ <input checked="" type="checkbox"/> 建築物等は周辺景観のまとまり感と協調して連続性がはかられていますか？									
<input checked="" type="checkbox"/> 基調色の調整	<ul style="list-style-type: none"> ・屋並みと連続し、軽快なスカイラインを保っていますか？ ・圧迫感なく周辺景観の美しい緑や伝統のまちなみを引き立えていますか？ ・浮いて見えることなく四季折々を通じた配慮がされていますか？ 								
<input checked="" type="checkbox"/> 補助色との調整	<ul style="list-style-type: none"> ・浮いて見えることなく基調色との相乗効果はあがっていますか？ ・派手さを抑えた控えめな壁面の分割化がはかられていますか？ ・屋並みと連続し、軽快なスカイラインを保っていますか？ 								
<input type="checkbox"/> にぎわい色の調整	<ul style="list-style-type: none"> ・色数は少なく絞りこみましたか？ ・面積は極小小面積に抑えましたか？ ・補助色で対応できるか検討し、可能な場合は補助色の中から選びましたか？ 								



STEP 1

ゾーン区分から調和色の範囲を確認

1 「まちのアクセントをつくる」のプロセスの条件に適合しているか確認します

- ・立地条件の主要な交差点に面するもの
 - ・立地条件の通りの軸線上にあるもの
 - ・立地条件の河川や港湾の軸線上にあるもの
 - ・立地条件のその他（坂道の上、下にあるもの）
 - ・計画建築物等の規模により周辺から突出するもの
- ※P20 まちのアクセントをつくるプロセスの条件参照

2 ゾーン区分と対象とするゾーン区分の景観計画色彩基準を確認します

ただし、一般市街地ゾーンは、他ゾーン調和色の考え方が適用される特例（P46～一般市街地内の特例参照）

がありますので、この考えにしがってください。

- ・一般市街地ゾーン
- ・山の辺・田園ゾーン
- ・一般市街地で山の辺・田園ゾーン適用地区
 - 風致地区内及び背景に風致地区
 - 背景に特別緑地保全地区
 - みどりの帯 みどりの基本計画
 - 山すそのみどり みどりの基本計画
 - 河川緑地軸沿い
 - 開けた水辺に面する（上記以外の河川、ため池）
- ・海浜ゾーン
- ・一般市街地で海浜ゾーン適用地区
 - 開けた水辺に面する（海浜、干潟、河口）
- ・都心ゾーン
- ・一般市街地で都心ゾーン適用地区
 - 幹線道路沿い ○ 広域拠点
- ・港湾ゾーン

参考事例：ヒルトン福岡シーホーク

P39 のチェックリストをもとに
記入例を示しています。

「ヒルトン福岡シーホーク」は、
当プロセス選択の条件の
「計画建築物等の規模により
周辺から突出するもの」に該当します。

※ヒルトン福岡シーホークは第9回
都市景観賞受賞を受賞しています

多様な視点場からの眺め



近景



施設前の橋上から

STEP 2

視点場から見える色彩を採取



1 視点場を確認します (P59 資料編 色彩の採取方法の項参照)

2 周辺の特徴を確認します

背景や周辺に見られる景観の特徴を以下の項目で調べます。

- ・ **自然（自然景観&風土基盤）**
公園、神社、街路樹等の緑豊かな山並み、田園の自然は見られるか
川、池、海浜、港風景は見られるか
- ・ **地域の個性（建物の歴史）**
歴史的建築物や文化的資源等あるか
- ・ **建築物等**
マンションやビル群の状況
一戸建その他建築物等の状況

3 視点場から見える色彩を採取します

特徴的な景観の色彩を採取し、マンセル値を記録します。
特徴がない場合は平均的な周辺建物等の色を採取します。
巻頭と資料編の「福岡の色」を参考に色値を補正し正確に記入します。

- ・ **自然（自然景観&風土基盤）**
(1)：植物、紅葉、山並み等の自然の色
(2)：公園や境内、田畑や山や海浜の土、砂、石等の風土基盤の色
- ・ **地域の個性（建物の歴史）**
(1)：赤煉瓦の建築物や日干レンガの塀等の伝統的な色
(2)：町家外観の木材意匠や土壁、石積等の伝統意匠の色
- ・ **建築物等**
(1)：平均的な周辺の建築物の外観色
(2)：特徴的な周辺の建築物の外観色

4 複数選んだ視点場の中からパース等に使用する主要軸線上の視点場を選びます

- ・ 選んだ視点場から計画建築物等又は計画地を入れた写真を撮影します。
- ・ 写真は周辺を広く取り入れたワイド写真かパノラマ写真とします。

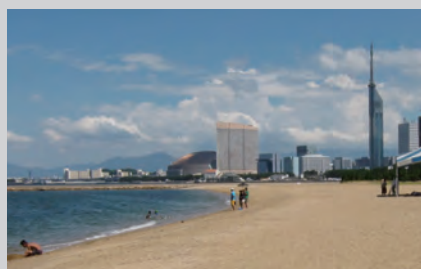
中景



施設に至る通りから



漁港から



浜辺から



STEP 3

色彩計画 パース、チェックリストで確認

1 周辺の色彩をどう捉えたか? 色彩の方向付けをします

色彩はもともと印象としてとらえられる側面があり、まちの軸線上や交差点の建築物、規模の大きな建築物の多くは、日常風景の中で多くの人から常時見られる対象となり、日頃から景観的影響度が高いものです。したがって軸線上にある視点場に限らず広範囲な視線を意識した色彩のとらえ方が必要となります。

色彩検討プロセスのうち、まとまり感をつくる①②では、取り囲む福岡の色を抛り所に調和色の範囲を提示してきました。ここではより対象を限定することにより、場所の特性に即した色彩を提案して下さい。

2 アクセント創出の考え方をまとめます

主要軸線上からの景観を「主」（主役）としてその他周囲の視点場から見る景観を「従」（脇役）とした「主従」のバランスの良い関係や通り景観の中での心地よいリズムカルな変化は魅力を感じさせてくれます。印象を良くも悪くも素直に見せてくれるのも影響度の高いこれらまちのアクセントの色彩ですので、取り巻く周辺の色彩を適切にとらえ、アクセント創出のためのモチーフとなる色や素材色の考え方の提示が求められます。

3 具体的な配色を提示します

「周辺の特徴の確認」作業並びに「視点場から見える色彩の採取」から背景や周辺の色彩を整理し、効果的なまちのアクセントとなる配色を選定します。

- ・補助色で基調色を引き立てたり、ボリューム感を和らげるなど補完する色を組み合わせる場合は補助色やにぎわい色からなる配色構成の考え方を採用しても構いませんが、必ずしもしたがう必要はありません。新たな配色構成を創造して下さい。
- ・にぎわい色のようなアクセント色を用いる場合は、都心ゾーンと港湾ゾーンでは景観計画で定められた彩度 6 以下の色が壁面全体で使用可能ですが、それ以外の一般市街地や田園・山の辺、海浜の各ゾーンでは景観計画にて建築物低層部での使用と規定されていますのでこれに従って下さい。

4 パース等により確認します

配色を割り付けたパース等シミュレーション図を作成し、色彩計画の内容が適切であることの確認を行います。

5 STEP 1 からの検討内容をチェックリスト (P39~40) に沿って確認します。



STEP 4

アドバイザー会議準備図書の作成

アドバイザー会議準備図書（色彩検討図書）の作成

1 チェックリスト

- ・STEP 1～3 とパース等シミュレーション図確認までのチェックリスト

2 色彩計画

- ・色彩調査の内容（視点場から見える色彩の採取）を含めた色彩計画をとりまとめ整理したもの

3 パース等シミュレーション図

- ・軸線等主要視点場数点からのパース等シミュレーション図

4 選定色

- ・選定した基調色と配色のマンセル値と色見本を布置したもの

以上を事前に準備し、市担当者と協議の上、アドバイザー会議での意見聴取を行います。

景観計画による行為の届出・色彩協議

アドバイザー会議

調整

色彩の決定

遠景



南公園西展望台から



市営渡船航路上から

色彩検討のプロセス 「まちのアクセントをつくる」アドバイザー会議準備図書(色彩検討図書)

アドバイザー準備図書一覧

注) 以上を A3 サイズ程度用の紙に作成して提出してください

図書の種類	内容
1 チェックリスト	色彩検討プロセスの STEP 1~3 とパース等シミュレーション図による確認までのチェックリスト
2 色彩計画	色彩調査の内容（視点場から見える色彩の採取）を含めた、色彩計画をとりまとめ整理したもの
3 パース等シミュレーション図	軸線等主要視点場数点からのパース等シミュレーション図
4 選定色	選定した基調色と配色のマンセル値と色見本を布置したもの

※記入例：P35~38 の事例に従い、記入例を表示しています

チェックリスト 記入例

- (注) 1 該当する□の中にし印を付けてください。
2 記載項目 _____ には名称や数値等を記入して下さい。

STEP 1 ゾーン区分から 使用色範囲を確認	<input checked="" type="checkbox"/> 「まちのアクセントをつくる」プロセスの条件への適合は適切ですか？ <input checked="" type="checkbox"/> ゾーン区分の位置は適切ですか？ <input checked="" type="checkbox"/> 一般市街地ゾーン内での特例適用は適切に行われましたか？
STEP 2 視点場から見える色彩を採取	<input checked="" type="checkbox"/> 視点場は遠景～近景の複数の視点場を設定しましたか？ <input checked="" type="checkbox"/> 周辺を色々と眺め、代表的視点場としましたか？ <input checked="" type="checkbox"/> 周辺の特徴に漏れはありませんか？ <input checked="" type="checkbox"/> 視点場から見える色彩は周辺の特徴を的確に示した色ですか？ <input checked="" type="checkbox"/> 色の採取にあたってのものさしとして標準色票や日本塗料工業会色見本帳等がありますが、どのような色見本を用いましたか？ 《記載》 <u>日本塗料工業会色見本帳</u> <hr/> <input type="checkbox"/> 周辺に特徴が少ないか見当たらない場合、どのような工夫を行いましたか？ <input type="checkbox"/> 平均的な建築物等の選定を行った <input type="checkbox"/> 事例調査を通じて広範囲な資料を収集した <input type="checkbox"/> その他《記載》と周辺景観の特徴を的確に表していますか？ <hr/> <input checked="" type="checkbox"/> パースに使用する視点場は、計画建築物等と周辺景観の特徴を的確に表していますか？
STEP 3 色彩計画	<input checked="" type="checkbox"/> 周辺の色彩として特に大切なものとして選んだものは何ですか？ 《記載》 <u>風土基盤である海浜の砂の色と高層の建物の背景をなす海や山並みの明るい色</u> <hr/> <input checked="" type="checkbox"/> 周辺の色彩のとらえ方は周辺の特徴に応じて、多様な捉え方をしましたか？ <input type="checkbox"/> 周辺の特徴が少ないか見当たらない場合、周辺の色彩の捉え方はどの様に行いましたか？ 《記載》 _____ <hr/> <input checked="" type="checkbox"/> アクセント創出のためのモチーフとして選んだものは何ですか？ 《記載》 <u>船の形状と海や砂浜、松など、海浜の特徴色をタイルのモザイクに用いた</u> <hr/> <input checked="" type="checkbox"/> 選んだモチーフが好印象として周辺景観の中で引き立つ理由は何ですか？ 《記載》 <u>海浜の広く広がった風景の中で、遠くから見ると色は穏やかながらも形状が引き立ち、近くから見ると海浜の特徴色のタイルが強い印象となって効果的である</u> <hr/> <input checked="" type="checkbox"/> 周辺の特徴 (STEP 2) に個性が見られる場合や建築物に形態の特徴を持たせる場合、個性や形態を強調するモチーフでデザインしますが、今回はそのような工夫はしましたか？ 《記載》 <u>博多湾に漕ぎ出す巨大な船をモチーフにデザインしている</u> <hr/> <input checked="" type="checkbox"/> 提案された基調色や配色の色相は、周辺や視点場から見られた特徴の色彩を基にして「自然の色との関係性を考慮し、どのような色相範囲」としましたか？ 《記載》 <u>風土基盤をベースとするアースブラウンと明るいサンドベージュ 10R~2.5Y を基本に、低層部にはぎわいのため他の色も用いている</u>

<p>STEP 3 色彩計画</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 提案された基調色や配色の明度は、周辺や視点場から見られた特徴の色彩を基にして「背景となる自然や建築物等との関係から、どのような明度範囲」としましたか？ 《記載》建築物上層部は、背景の明るい山並みや空、海と調和する明るい色とし、低層部は、安定感のある低明度から選んだ</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 提案された基調色や配色の彩度は、周辺や視点場から見られた特徴の色彩をもとにして「背景や周辺とどのような調和がはかられる彩度範囲」としましたか？ 《記載》建築物上層部は、背景の淡い山並みやスカイグレイの空と調和する低彩度色とし、低層部は、にぎわいをつくるためやや高めの彩度色から選んだ</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 提案された基調色や配色は各ゾーン調和色の考え方に対してどのようなアクセント性を付加したものですか？立地するゾーンの調和のための作法に対して付加したのものとして記載してください 《記載》砂浜のサンドベージュ色の類似色を用いるなど、中遠景からの海浜らしい開放感のある明るい色調とする一方、形態的には船をモチーフとした流線型のコントラストを示した。この上層部の見えに対して低層部は風土基盤色を基調としながら海の青や松の緑等をちりばめて色のアクセント性を付加した</p> <p>各ゾーンと歴史・伝統地区の調和のための作法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般市街地ゾーン：自然を超えない控えめな色で馴染ませ、まちなみに潤いと四季の彩りを与えるみどりとの相乗効果を高める色彩景観をつくる ・山の辺・田園ゾーン：里山や広がりを持つ田園風景を背景に、山々のみどりや幹の色、田畑等の大地の色とが連続する自然素材の色で、高い協調性を保つ色彩景観をつくる ・海浜ゾーン：海や砂浜、松並木等、海浜の風景を背景に、融和性が高く穏やかな素材色と、海浜らしい開放感のある明るい色調とのコンビネーションで自然を享受する色彩景観をつくる ・都心ゾーン：地域を取り巻く自然や伝統の特質を尊重し、まち並みのベーシックな色と歩調を合わせて地域のまとまりを確保した色彩景観をつくる ・港湾ゾーン：博多湾からの眺めを意識し、開放的な海や背景の山並みに調和させた色彩景観をつくる ・歴史・伝統地区：歴史が刻まれた伝統意匠や素材を基調とした歴史資源と周辺建築物等との調和を確保しつつ、福岡らしい伝統の魅力ある色彩景観をつくる <p><input checked="" type="checkbox"/> 候補色は景観計画の色彩基準内ですか？</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 配色は建築物の形態や素材を考慮したものですか？</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ボリューム軽減策としての壁面の分節化等のような配慮を行いましたか、行わなかった場合は何故ですか？ 《記載》建築物の高層と低層で分節化を図った</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 低層部への強調色の積極的活用は、歩いていて楽しい魅力的な空間づくりに関わることから、周辺の通り景観の基調にどのような変化性を加え、魅力を演出しましたか？ 《記載》暖色を基調にしたタイルをモザイク状に用い、近くからのにぎわいの見えと、中景からは一様に周辺とまとまって見えるように演出した</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> その他、今回の計画にあたって工夫したことや配慮したものがありましたら記入して下さい。 記載：暖色のサンドベージュを基調としたことで、海に漕ぎ出す船腹部分に赤い朝日や夕陽を浴び、</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> アドバイザー会議のための資料は揃っていますか？</p>						
<p>パース、チェックリストで確認</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> パース等への基調色、補助色、にぎわい色の割付は適切に行いましたか？</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 建築物等全体としてまとまりは図られていますか？</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 建築物等は周辺景観のまとまり感と協調して連続性が図られていますか？</p> <table border="1" data-bbox="438 1697 1468 2065"> <tr> <td data-bbox="438 1697 667 1886"> <p><input checked="" type="checkbox"/> 基調色の調整</p> </td> <td data-bbox="667 1697 1468 1886"> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺やまちなみに対して、冷たく疎遠な印象を与えていませんか？ ・派手過ぎ、暗すぎあるいは明るすぎで浮いていませんか？ ・圧迫感を与えていませんか？ ・屋並みと連続し、軽快なスカイラインを保っていますか？ ・周辺景観の美しい緑や伝統のまちなみを引き立てていますか？ ・四季折々を通じた配慮がされていますか？ </td> </tr> <tr> <td data-bbox="438 1886 667 1998"> <p><input checked="" type="checkbox"/> 補助色との調整</p> </td> <td data-bbox="667 1886 1468 1998"> <ul style="list-style-type: none"> ・基調色との相乗効果はあがっていますか？ ・ボリューム感が軽減されていますか？ ・提案された色彩計画の考え方に即した効果的な壁面の分節化が図られていますか？ </td> </tr> <tr> <td data-bbox="438 1998 667 2065"> <p><input checked="" type="checkbox"/> にぎわい色との調整</p> </td> <td data-bbox="667 1998 1468 2065"> <ul style="list-style-type: none"> ・色数は少なく絞りこみましたか？ ・面積は極力小面積に抑えましたか？ </td> </tr> </table>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 基調色の調整</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺やまちなみに対して、冷たく疎遠な印象を与えていませんか？ ・派手過ぎ、暗すぎあるいは明るすぎで浮いていませんか？ ・圧迫感を与えていませんか？ ・屋並みと連続し、軽快なスカイラインを保っていますか？ ・周辺景観の美しい緑や伝統のまちなみを引き立てていますか？ ・四季折々を通じた配慮がされていますか？ 	<p><input checked="" type="checkbox"/> 補助色との調整</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基調色との相乗効果はあがっていますか？ ・ボリューム感が軽減されていますか？ ・提案された色彩計画の考え方に即した効果的な壁面の分節化が図られていますか？ 	<p><input checked="" type="checkbox"/> にぎわい色との調整</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・色数は少なく絞りこみましたか？ ・面積は極力小面積に抑えましたか？
<p><input checked="" type="checkbox"/> 基調色の調整</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺やまちなみに対して、冷たく疎遠な印象を与えていませんか？ ・派手過ぎ、暗すぎあるいは明るすぎで浮いていませんか？ ・圧迫感を与えていませんか？ ・屋並みと連続し、軽快なスカイラインを保っていますか？ ・周辺景観の美しい緑や伝統のまちなみを引き立てていますか？ ・四季折々を通じた配慮がされていますか？ 						
<p><input checked="" type="checkbox"/> 補助色との調整</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基調色との相乗効果はあがっていますか？ ・ボリューム感が軽減されていますか？ ・提案された色彩計画の考え方に即した効果的な壁面の分節化が図られていますか？ 						
<p><input checked="" type="checkbox"/> にぎわい色との調整</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・色数は少なく絞りこみましたか？ ・面積は極力小面積に抑えましたか？ 						

調和色を用いた、簡易版色彩検討

STEP 1

ゾーン区分と調和色の範囲を調べます



1 建物など計画する場所はどこですか？

場所の住所から何ゾーンにあるのかを景観計画の地図 (P2) または市都市景観室 HP より調べ、シート 1 に記入します。

ただし、一般市街地ゾーンで景観の特性の近いものは他のゾーンでつかえます。

※詳しく知りたい場合は P46 の一般市街地ゾーン内の特例を参照

2 対象とするゾーン区分の調和色範囲を確認します

簡易版色彩検討の手順では調和色を用いて、まとまり感のある色彩景観を目指します。

※P45 以降の各ゾーンと歴史・伝統地区のガイドライン参照

色彩検討例

一般市街地ゾーンでの住宅建設を想定して例示します。



シート 1 「ゾーン区分」

一般市街地ゾーン

山の辺・田園ゾーン

一般市街地で山の辺・田園ゾーン扱いのもの

- ・ 風致地区とその周辺の地区
- ・ 特別緑地保全地区とその周辺の地区
- ・ みどりの帯に当る市の総合公園とその周辺の地区
- ・ 山すそのみどりに当る市街化区域と市街化調整区域周辺の地区
- ・ 河川沿いの地区
- ・ ため池等の開けた水辺に面する地区

海浜ゾーン

一般市街地で海浜ゾーン扱いのもの

- ・ 海浜、干潟、河口等の海辺の開けた水辺に面する地区

都心ゾーン

一般市街地で都心ゾーン扱いのもの

- ・ 主要道路沿い
- ・ 西部広域拠点、東部広域拠点、南部広域拠点の各地区

港湾ゾーン

歴史・伝統地区

STEP 2

視点場を決め周辺の色彩を調べます



1 視点場を決めます

- ・市販の地図などで対象が見えることが予想される視点場をチェックし、現地に移動して良く見える幾つかの視点場を選びます。
- ・現地ではそれぞれの視点場からの写真を撮影しておきますと後で何がどのように見えたかが確認できて便利です。

(※詳しく知りたい場合は P59 資料編 色彩の採取方法を参照)

2 視点場から見える特徴的な色彩を調べます

- ・視点場から見られる対象周辺の特徴的な色彩を現地でチェックし、それに近い色を巻頭と資料編の「福岡の色」から選びます。
- ・選んだ福岡の色の No.(番号) をシート2 に記入します。
- ・特徴がみあたらない場合は周辺の建築物の色とし、建築物に近い色を選びます。



対象の住宅

シート 2

「視点場から見える特徴的な色彩」

自然 (自然景観&風土基盤)

- ・ 1 : 植物の緑葉、紅葉、新緑等の自然の色
No. _____ No. _____ No. _____
- ・ 2 : 公園や境内、田畑や山や海浜の土、砂、石などの風土基盤の色
No. L49 _____ No. L50 _____ No. _____

地域の個性 (建物の歴史)

- ・ 1 : 赤煉瓦の建物や日干レンガの塀等の伝統的な色
No. _____ No. _____ No. _____
- ・ 2 : 町家外観の木材や土壁、石積等の伝統意匠の色
No. _____ No. _____ No. _____

建築物等

- ・ 分類 1 : 周辺の建物の外観色
No. _____ No. _____ No. _____



STEP 3

調和色の中から基調色を選びます

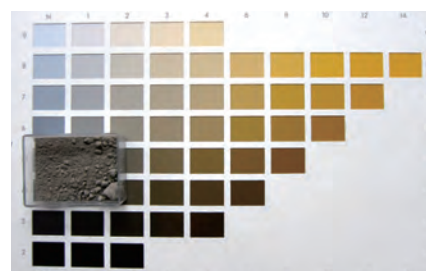
1 大きな面積で使用する色を取り出します

- ・各ゾーンのガイドライン(P45以降)から対象となるゾーンのページを見て調和色の中でSTEP 2のシート2で選んだ色に近い色を探します。
- ・見つければその色の横列に並ぶ色(色相が同じで明度と彩度の異なる幾つかの色)をチェックし、その中から対象物に使う大きな面積の色(基調色と言います。対象物の外観の印象を決める色のことです)の候補を選びます。選び方は融和法と言って視点場から見える対象とその周辺や背景を同じような近い色を用い調和させて見せる方法で、違和感を極力抑えられ、まとまり感が高まります。

2 基調色を決めます

- ・撮影した写真等と見比べながら周辺の特徴的な色や視点場から対象を見たときの背景色を阻害しない、地域の大切にすべき色彩景観を引き立てる基調色を候補色の中から絞り込みます。
- ・周辺の特徴的な色や背景色が明るいときは、その明るさに近い明るさかやや暗めの色を調和色から選びます。逆に暗いときは近い暗さかやや明るめの色を選びます。
- ・彩度については近い彩度か低めの彩度の調和色から選びます。
- ・候補色と選んだ基調色の色相・明度・彩度をシート3に記入します。

周辺の特徴的な色彩



- ・田圃の四季から春の風景
 - ・初夏の田圃
 - ・田圃の土
- ・この場所で四季の自然を美しく引き立てるには、安定した土の色が効果的

シート 3	「基調色の選定」
候補色	
・ 候補色 1	色相：10YR 明度：7 彩度：2
・ 候補色 2	色相：2.5Y 明度：6 彩度：2
選定した基調色	
	色相：10YR 明度：7 彩度：2

シート 4	「配色の組み合わせの工夫」
・ 補助色	色相：2.5Y 明度：5 彩度：2 色相： 明度： 彩度：
・ にぎわい色	色相：7.5YR 明度：5 彩度：4 色相： 明度： 彩度：
※にぎわい色に木材のオーク色使用で自然と協調	

STEP 4

基調色に配色（補助色等）を組み合わせ、まとまり感をはかります

・基調色1色だけを用いる場合はSTEP 3で選定は終了です。

1 配色の組み合わせを工夫します

・一戸建て住宅の場合、基調色の1色だけでは単調になりがちなので、例えば1階と2階部分を塗り分けるなど変化を与えて、調和感を高める役割を持つ色を補助色と言います。また1階と2階の間にラインを設けたり、バルコニー部分や雨樋を色分けするなど小面積のアクセントを用いてにぎわい色とする場合もあります。この様な補助色やにぎわい色を組み合わせる場合は、建築物外観としてのまとまりをはかる必要があります。

何色かの色を組み合わせることを配色と言い、まとまり感など調和を得ることを配色構成と言います。

・配色に補助色を用いる場合、調和色の中の基調色と同じ色相が隣の色相の列から明るさの差のあるものを用いると適度な変化とまとまり感の配色構成が得られます。

・にぎわい色には、STEP 2の周辺の特徴色に近い色を用いると街並みや地域としての調和を高めることができます。

周辺に特徴色が見当たらない場合は、周辺の住宅や建築物に使われているにぎわい色などの中から気に入ったものを選び、基調色や補助色と組み合わせることで彩度を弱めたり明度を明るくしてみたりを繰り返して、なじみの良いものを選びます。

※ 建築物の外観の簡単なスケッチに色塗りし、出来上がりのイメージを確認します。

- ・スケッチは、既設住宅の塗り替えの場合、撮影した写真を元に建築物の外郭線を映し込むと簡単に出来ます。新築の場合は業者の方に相談し、立面図などに色塗りしても良いでしょう。
- ・決定しましたら選んだ補助色とにぎわい色の色相・明度・彩度をシート4に記入します。



基調色のみ（単一色）



基調色と補助色の配色



基調色とにぎわい色の配色



基調色と補助色とにぎわい色の配色

出来上がりイメージ ・外観のスケッチに配色を割り付したもの

